

## 授業の具体的展開例

### 〈話し合いによる集団解決〉

(プロジェクターなどで提示しながら、発表させる) …

T : 作った三角形をどのように仲間分けをしたのか発表しましょう。なぜ、そのような仲間に分けたのか、理由も付けて説明しましょう。

C 1 : わたしは、このように分けました。見た形で分けたのです。わたしの分け方が分かりましたか。

C 2 : わたしは、辺の色を見てこのように仲間分けをしました。どうですか。

C 3 : わたしも、C 2さんに賛成です。わたしは色で分ける方法は、長さで分けていることになると思います。どうでしょう。

…

T : 皆さん、長さをもとにした仲間わけが多かったようですね。実は、この仲間わけの方法を使ったとき、この三角形の仲間(グループ)には名前が付いているのです。この仲間は「二等辺三角形」(カードを貼る)と言います。さて、「二等辺三角形」とは、どんな三角形と言えましょう。自分のワークシートに書いてみましょう。

…

T : では、発表してください。

C 4 : 2つの辺が同じ長さになっている、このような三角形の仲間を二等辺三角形と言うのだと思います。

C : 賛成です。

T : うまく、まとめましたね。(板書して、必要な児童にはワークシートを直すように指示する。次に、「正三角形」について意味を考えさせる。) …

## 「活用」の力を育てる評価の工夫

本時は児童が視覚的にとらえやすいように、指定の長さの4色のストローを使い、様々な三角形を作らせ、分類(仲間分け)させる。その際、自分で考えた分類の仕方の根拠を明確にさせ、ワークシートに記述させる。

集団解決では、自分で考えた分類と比較しながら、色による分類が長さによる分類であることに着目した分類を取り上げることが説明する。三角形そのものの大小や向きでなく、辺の長さでの分類について話し合せて、思考したり判断したりする力を伸ばす。また、分類したこれらの三角形に名前を付ける必要を感じ取らせることも重要である。「二等辺三角形」「正三角形」の用語は教え、できるだけ児童の発言を生かして「辺が同じ長さになっている三角形を二等辺三角形と言います。」など、児童自身に意味を考えさせるようにする。

## 「活用」の力を育てる評価の視点

本時では作った三角形の仲間分けの根拠を明確にして話し合わせる事が大切である。根拠を相手に分かるように説明させるとともに、他の児童の仲間分けと比較しながら話し合わせる事により、思考力、表現力を伸ばす。

「活用」の力を見取る具体的な視点として、

- ① 辺の長さに着目して二等辺三角形、正三角形などに分類する意味を理解し、説明することができる。
- ② 辺の長さに着目して二等辺三角形、正三角形などに分類する意味は理解できるが、説明が十分でない。
- ③ 色と辺の長さとの関係に着目できず、二等辺三角形、正三角形などに分類できない。

が考えられる。③の状態をつくらないために、児童の状況に応じて「同じ辺がいくつあるか考えて分けると、どんな仲間分けになるだろう。」と問いかけ、色と長さの関係に気付かせることも考えられる。①の状態にするため、②③の児童に対して、自力解決、集団解決の話し合いの場面における見取りと指導、適応問題での個別指導を充実させる。さらに、振り返りでは、学習内容を整理させ、書くことを通して既習事項を次の学習に活用する力を育てる。